

古河歴史見聞録

古河と鉄 古代遺跡の謎

市内に鍛冶町という地名があります。近年、通りが拡張されて、古河マルシェが開かれるような場所になっていきます。ものの本によれば、江戸時代の初めころ、鍛冶職が多く住んでいたことがその名の由来とされています。鍛冶とは、鉄などの金属を高温で熱しながら叩き鍛え、不純物を取り除いて、より純度の高い金属を得る工程のこと。かつてはこうした職人が多く暮らしていた場所だったのでしょうか。



▲「勒」と思われる文字が彫られた鋳型(反転したもの)

古代の工房跡
川戸台遺跡。牧野地にある遺跡です。平成21年から行われた発掘調査によって、今から約1100年前の人々の痕跡が発見されました。土の中から見つかったものは、鋳型・炉の跡・鉄くずなど。いずれも、鉄づくりや、鑄造に関わるものばかりです。鑄造とは、型(鋳型)に溶かした鉄などを流し込み、鍋などの鑄物製品を作る方法です。流し入れた鉄が冷えて固まると、型を壊して中の製品を取り出します。

しかし、遺跡から見つかった型はいずれも破片で、完全な形のものはありません。つまり、製品を作った後に鋳型が壊され、千年以上経って発見されたというわけです。こうしたことから、この遺跡は、古代の製鉄・鑄造工房であったということが分かりました。

古河のこゝる跡
実は、市内にはこうした鉄づくりや鉄を使った製品づくりの痕跡

がいくつもあります。例えば、上大野にある本田山遺跡の一部では、鍛冶の痕跡が発掘によって見つかっています。また、柳橋の弁天遺跡や、久能の香取西遺跡でも鉄くずや鍛冶炉と思われる形跡が見つかっています。

一方、川戸台遺跡では、土の中から見つかったもの(遺物)の量は、重さにして約4トン。力士の平均体重がおよそ165kgだそうですから、24人と少し。東日本最大級の製鉄・鑄造遺跡ではとされているほどで、前述の遺跡とは比べ物にならない量です。その中には、文字が彫られた鋳型など特徴的な遺物も含まれていました。こうした重要性から、本遺跡は速やかに市の史跡に指定されています。

古代遺跡の謎
人類の歴史に大きな影響を与えた鉄。今なお私たちの生活には欠かせないものですが、ここで作られた鉄製品は、当時のお寺や公共施設、また、軍隊の装備品として

使われたのではないかと考えられています。では、どうやって製品を運んだのか、鉄の原料となる砂鉄はどこから持ってきたのか、工房の作業員はどこに住んでいたどんな人たちだったのか…。こうした謎は、利用方法も含めてまだはつきりとは分かっていません。発掘調査が行われたのはごく一部。今後、調査研究が進んでいけば、少しずつその姿が見えてくるかもしれません。



▲川戸台遺跡の発掘調査

古河歴史博物館企画展「川戸台遺跡展・古河と鉄」9月15日(土)～10月8日(月・祝)
古河歴史博物館学芸員 谷中溪

【児童書/読み物】

ふつうやない! はなげばあちゃん

山田真奈未 作・絵

鼻の穴からもっさりと鼻毛がはみ出ている、はなげばあちゃん。ばあちゃんが大きく息を吐くと、鼻毛がびよんと飛び出し、狙った食べ物をひつつかみ…。だれもが生えている鼻毛をテーマにした、奇想天外なストーリー。

出版社…福音館書店

【絵本】

じてんしゃがしゃがしゃ

かさいまり 文

誕生日に自転車を買ってもらったゆうたは、がしゃがしゃ補助輪をつけて走ります。いつか補助輪をはずそうと、お父さんと内緒の約束をしました。ところが、お父さんが仕事で遠いところに行ってしまう…。

出版社…絵本塾出版

図書館の本棚から



三和図書館

【一般書/食文化】

アマゾンの料理人

太田哲雄 著

数々の三ツ星店で修業した料理人が、旅と出会いの末に南米アマゾンから教わった食べること、生きることの本質を綴る。Web雑誌に掲載された川手寛康との対談も収録。「IN★POCKET」連載を加筆し書籍化。

出版社…講談社

【一般書/小説】

友達以上探偵未満

麻耶雄高 著

高校生のももとおおは、イベントで殺人事件に巻き込まれる。ももの直感力とおおの論理力を生かし、ふたりは事件を解決していくが…。「伊賀の里殺人事件」ほか全3編を収録。「小説野生時代」「文芸カドカワ」掲載を単行本化。

出版社…KADOKAWA



提供:三和資料館

県道結城野田線と県道つくば古河線が交差する山田十字路。写真が撮影された昭和30年代は、高度経済成長に伴い、自動車と共にダンプやトラックが頻りに走るようになりました。アスファルト舗装がされていない道路をレトロな車が行き交う風景が印象的です。

古河今昔物語

Time Travel Photograph

